

カーボンニュートラルマネジメント検定 ベーシック 出題範囲(シラバス)



【Vol.0】経営との接続					
テーマ	カリキュラム（大分類）	カリキュラム（小分類）	対応カテゴリ	到達レベル	到達内容の具体説明
経営接続	脱炭素と企業価値	ESGと企業価値	企業における排出量削減の必要性	L2：概念を説明・比較できる	排出削減が企業価値・投資判断に影響する構造を説明できる
経営接続	ステークホルダーの要請	投資家・取引先要求	企業における排出量削減の必要性	L2：概念を説明・比較できる	サプライチェーンの排出削減要請を理解している
【Vol.1】企業による気候変動対策の重要性					
テーマ	カリキュラム（大分類）	カリキュラム（小分類）	対応カテゴリ	到達レベル	到達内容の具体説明
温暖化基礎	地球温暖化の仕組み	温室効果	温暖化の影響（物理リスク）と脱炭素の必要性	L2：概念を説明・比較できる	温室効果のメカニズムを図解レベルで説明できる
温暖化基礎	温室効果ガス	CO ₂ ・CH ₄ ・N ₂ O	温暖化の影響（物理リスク）と脱炭素の必要性	L2：概念を説明・比較できる	主要GHGの違いと排出源を区別できる
物理リスク	急性リスク	異常気象・災害	温暖化の影響（物理リスク）と脱炭素の必要性	L3：具体例を分類・判断できる	具体事例を急性リスクに分類できる
物理リスク	慢性リスク	海面上昇・気温上昇	温暖化の影響（物理リスク）と脱炭素の必要性	L3：具体例を分類・判断できる	慢性リスク事例を識別できる
移行リスク	規制リスク	炭素税・排出規制	政策等から生じる移行リスク・機会	L3：具体例を分類・判断できる	規制リスクを具体例から判断できる
移行リスク	技術リスク	技術革新	政策等から生じる移行リスク・機会	L3：具体例を分類・判断できる	技術リスクを分類できる
移行リスク	市場リスク	需要変化	政策等から生じる移行リスク・機会	L3：具体例を分類・判断できる	市場リスクを識別できる
移行リスク	レピュテーションリスク	企業評価・ブランド毀損	政策等から生じる移行リスク・機会	L2：概念を説明・比較できる	レピュテーションリスクの構造を説明できる
移行機会	ビジネス機会	新市場創出	政策等から生じる移行リスク・機会	L2：概念を説明・比較できる	移行機会の具体例を説明できる
【Vol.2】排出量の算定と周辺知識					
テーマ	カリキュラム（大分類）	カリキュラム（小分類）	対応カテゴリ	到達レベル	到達内容の具体説明
排出量算定	GHGプロトコル	目的・特徴	GHG排出源（スコープ）	L2：概念を説明・比較できる	GHGプロトコルの目的を説明できる
Scope	Scope1	直接排出	GHG排出源（スコープ）	L3：具体例を分類・判断できる	排出活動の具体例をScope1に分類できる
Scope	Scope2	間接排出	GHG排出源（スコープ）	L3：具体例を分類・判断できる	排出活動の具体例をScope2に分類できる
Scope	Scope3	上流・下流排出	GHG排出源（スコープ）	L3：具体例を分類・判断できる	排出活動の具体例をScope3に分類できる
境界設定	組織境界	排出源の範囲と境界	GHG排出源（スコープ）	L3：具体例を分類・判断できる	境界の判断ができる
サプライチェーン排出量	サプライチェーン排出の広がり	上流・下流の考え方	GHG排出源（スコープ）	L2：概念を説明・比較できる	サプライチェーン排出の考え方を説明できる
【Vol.3】脱炭素化に関する国際的動向					
テーマ	カリキュラム（大分類）	カリキュラム（小分類）	対応カテゴリ	到達レベル	到達内容の具体説明
国際枠組	国連気候変動枠組条約	条約の目的	国際動向	L1：用語・制度の理解	条約の目的を理解している
国際枠組	COP	会議の役割	国際動向	L1：用語・制度の理解	COPの役割を説明できる
国際枠組	京都議定書	先進国の削減義務と数値目標	国際動向	L2：概念を説明・比較できる	京都議定書の内容やポイントを理解している
国際枠組	パリ協定	全締約国参加と1.5℃目標	国際動向	L2：概念を説明・比較できる	パリ協定の意義を説明できる
国際枠組	欧州グリーンディール	政策の目的・全体像	国際動向	L2：概念を説明・比較できる	欧州グリーンディールの内容やポイントを理解している
国際枠組	EUタクソノミー	持続可能な経済活動の分類基準	国際動向	L2：概念を説明・比較できる	EUタクソノミーの内容やポイントを理解している
国際枠組	国際原則	共通だが差異ある責任	国際動向	L2：概念を説明・比較できる	共通だが差異ある責任（CBDR）の考え方を理解している
国際枠組	炭素国境調整メカニズム	制度の目的・概要	国際動向	L2：概念を説明・比較できる	炭素国境調整メカニズムの内容やポイントを理解している
【Vol.4】国内政策					
テーマ	カリキュラム（大分類）	カリキュラム（小分類）	対応カテゴリ	到達レベル	到達内容の具体説明
国内政策	GX	GXの概要	国内政策	L1：用語・制度の理解	GXの基本概念を理解している
国内政策	グリーン成長戦略	産業政策	国内政策	L1：用語・制度の理解	国・自治体の政策や戦略のポイントを理解している
国内政策	補助制度	支援制度	国内政策	L2：概念を説明・比較できる	主な補助制度・支援策の目的や対象の違いを理解している
カーボンライシィング	炭素税・排出量取引	制度比較	国内政策	L2：概念を説明・比較できる	両制度の違いを説明できる
【Vol.5】企業の開示とイニシアチブ					
テーマ	カリキュラム（大分類）	カリキュラム（小分類）	対応カテゴリ	到達レベル	到達内容の具体説明
開示	TCFD	4要素	企業における開示の意義	L2：概念を説明・比較できる	TCFDの4要素を理解している
開示	CDP	質問書の目的	企業における開示の意義	L1：用語・制度の理解	CDPの目的を説明できる
目標設定	SBT	科学的目標	企業における開示の意義	L2：概念を説明・比較できる	SBTの意味を理解している
再エネ	RE100	再エネ電力100%目標	企業における開示の意義	L1：用語・制度の理解	RE100の趣旨を理解している
基準	IFRS	IFRSサステナビリティ開示基準（ISSB）	企業における開示の意義	L1：用語・制度の理解	IFRS基準の意義を理解している

株式会社宣伝会議 CNM検定事務局
更新日：2026年3月

【凡例】対応カテゴリ

本検定は、環境省認定制度「脱炭素アドバイザー ベーシック」認定資格として運営されており、環境省が公開している「脱炭素アドバイザー資格制度認定ガイドライン」に定義される「ベーシック類型において求められる知識等の水準、サステナビリティ全般の基礎知識の習得において、気候変動対策の重要性に関する以下の7つの事項」を中心とした資格として設計されています。

- ・ 温暖化の影響（物理リスク）と脱炭素の必要性
- ・ 政策等から生じる移行リスク・機会
- ・ GHG排出源（スコープ）
- ・ 国際動向
- ・ 国内政策
- ・ 企業における排出量削減の必要性
- ・ 企業における開示の意義

【凡例】到達レベル

本検定の出題範囲の各項目において、受験時までに、学習していただきたいレベル感の目安として明示。到達内容の具体説明は、その内容を簡易にご説明する補足文章。

- L1：用語・制度の理解
L2：概念の説明・比較できる
L3：具体例を分類・判断できる

※到達レベルは、試験問題の難易度ではなく、受験時までに到達していただきたい理解水準の目安です。

【参考】推薦学習

本検定の公式対策講座および関連する教育講座を多数展開しております。
ぜひ受験の対策としてご活用ください。
また日々の日進月歩の情報収集や知識のアップデートには、メディア「環境ビジネス」をぜひ活用ください。

■カーボンニュートラルマネジメント検定 ベーシック対策講座（約100分）

■環境ビジネスが提供するeラーニングプログラム

■毎日更新Webメディア「環境ビジネスオンライン」&季刊誌「環境ビジネス」



※それぞれ画像をクリックすると詳細ページへ遷移いたします